

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着事業所としての理念を作り、玄関に掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を共有、毎日復唱し全職員、その実践に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・推進会議等で事業所や利用者が地域と交流する事の大切さを家族や参加メンバーで話し合う機会を設けている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・立地条件が商業地であるため近所づきあいが難しい条件である。	<input type="radio"/> ・近隣住人の方との挨拶を大切にし、利用者と育てた草花を飾っていただけませんか交渉したり交流のきっかけを作るよう努めていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ふれあい祭や地域の夏祭りに参加し、地域の人々と交流する事が出来るよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営推進会議や職員会議等で地域に貢献できることはないか話合う機会を設けている。ホームで植えた花をお世話になっている美容室に季節毎に持って行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・全職員、自己評価、外部評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議の議題として取り上げ、参加メンバーに自己評価、外部評価の意義等説明報告を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・不明な点やわからない事がある場合は気軽に電話で相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・運営推進会議の議題として取り上げ、社会福祉協議会職員に話をしてもらい、家族職員が共通理解できるよう努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止法についての研修を受け、ホームで勉強会を開いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は十分に説明行い、家族、利用者が納得できるよう遂行している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・介護相談員の方に訪問してもらい、利用者の話を聞いてもらっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族の面会時に、日頃の生活の様子や健康状態、心身の変化など説明している。体調が優れない状態が続く場合や剥離や転倒などの事故があった場合はすぐに電話にて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で意見や改善して欲しい点、不満等を表わせる機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議で出た意見、提案等、改善可能なものは柔軟に対応し職員の意見が反映しやすい環境作りに努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者に十分目が届くよう、忙しい時間帯に職員が配置されるよう努めている。地域の行事に参加する時など、その時間帯に手厚く職員を配置している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員や臨時職員を十分に確保し、職員が業務負担を感じることなく、利用者への質の高いケアができるよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・全職員、研修参加の機会を確保している。また希望する研修がある場合勤務に支障がない限り受講できる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・認知症高齢者連絡協議会のブロック別研修会などに参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・年に2～3回親睦会を開催している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・利用者に対する言葉掛けや接し方等見ながら、職員の日々の努力や実績の把握に努めている。 ・受講したい研修、ケアマネージャーの資格取得を呼びかけ、向上心を持てるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から入所に至るまで、利用者がどんな生活を望んでいるのか、どんなことに不安を持っているのかゆっくり話をする機会を設けるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から入所に至るまで、家族とゆっくり話をしどのような要望・希望を持っているのか聞く機会を設けるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談があった場合は、利用者心身の状態、相談者の困っていることを把握し、本人と家族が今必要とするサービスが受けられるよう支援している ・当ホームが満所の場合他施設の情報を提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・今まで、徐々ににホームの雰囲気慣れ親しためるような段階的な支援は行っていない。	○	・今後、入所前には徐々にホームの雰囲気に慣れるよう、何度かホームに遊びに来てもらい、他の利用者や職員と顔なじみの関係が出来てから入所というように、家族とも相談しながら段階的にサービスを開始していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者一人ひとりが主役になれる場、機会を提供し、喜怒哀楽を自由に表現できる暮らしが送れるよう支援している。 ・職員は、利用者から、生活の知恵、昔のならわし、物を大切にすること、方言などいろんな事を学んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会の際は利用者の日頃の様子、良いこと悪いこと楽しいこと、ともに笑ったこと全て含めて話す機会を持ち、そうすることで家族から利用者の昔の話等聞ける機会が出来、喜怒哀楽を共有できる。 ・家族に協力してもらえることは、協力がもらえる関係作りに努めている。	○	・面会に見えない家族に対してもホームでの様子をもっと知らせよう取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・利用者と家族の関係把握に努めより良い関係が築けるよう支援している ・ホームで地域の行事に参加する時は、家族に参加呼びかけ、利用者と一緒に過ごす機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者の友人知人等の面会ある場合は、居室でゆっくり過ごしてもらい、気軽に遊びに来れる雰囲気作りに努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者間の人間関係を日ごろの様子より正確に把握し、人と交わる事が苦手な利用者にはレク等参加促し、職員が上手く仲介役となり他の利用者とのコミュニケーションがとれるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービス利用終了後、継続的な関わりを必要としたケースは、今の所ないが、必要な場合は行う用意はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員一人ひとりが利用者の毎日の暮らしぶりから、意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所の際家族、本人より話を聞く。ホームでの生活のなかで本人から話を自然と引き出す。又家族の面会ある時に情報を得るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・職員一人ひとりが利用者の心身状態、能力等見極めケアを行っており、変化等ある場合、意見を出し情報の共有が出来るよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人、家族を交えての話し合いは行っていない。介護計画を立てた後で家族または利用者に説明を行い同意を得ている。	○	介護計画を立てる前に、家族又は利用者、ホームにどのような事を望むか、ホームでどのような生活を送りたいか話を聞いている。介護計画に同意得られない場合、即座に介護計画の立てなおし行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・おおむね6ヶ月に一回介護計画の見直しを行い、利用者の心身の状態の変化見られる場合は、その都度介護計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・職員同士情報を共有できるように、毎日利用者の一日の様子を記録し、介護計画の作成や見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・柔軟な対応、支援行っている ・家族が自由に利用者の部屋に宿泊できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・利用者の意向や必要性に応じて地域資源を活用しながら、地域の中に密着した生活ができるよう努めている。 ・誕生会等にボランティアに来てもらっている。 ・エスケープ等に備えて、近くの交番に協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・利用者、職員が、地域交流できる機会を見出し、地域の人々と交流する事が出来るよう努めている家族が他のサービス活用を望む場合は他のサービス事業所と十分話し合い、望むサービスが受けられるよう支援している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・共働はしていないが、空き部屋の情報など提供させてもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する際本人あるいは家族が望むかかりつけ医をきちんと把握している。 ・ホームに併設している医院を希望される場合は、2週間に一度主治医の診察を受けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>・家族、職員、主治医と十分話し合い本人にとって一番いい方法がとれるような取り組みをしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は、利用者一人一人の生活歴や性格、特徴を把握し、利用者の誇りやプライバシーを損なわないような声掛けを心がけている。 ・個人情報の記録等は個人毎にファイリングし、所定の場所にて一元管理を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者とのコミュニケーションを多く持ち、本人の意思を極力くみ取れるよう心がけている。そのため、相手の目線に立ち優しく話しかけ、ゆっくり待つ介護に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ホームの1日の流れは事前に決めてあるが、利用者個々のペースを大切にするため無理強いをせず自由な1日をが過ごせるよう支援している。	・決まりや都合をなるべく少なくして、一人ひとりのペースをもっと大切に、支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・定期的に職員が美容室と一緒に掛かけたり、家族の協力の元、行きつけの美容室に出掛けている。 ・身だしなみやおしゃれが出来るよう、整髪剤やクリーム等を自由に使用してもらおう。また、洗面所にはくし等を絶えず置いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の好みを把握し、好みの食事を多く取り入れ楽しい食事を支援している。 ・食材の切り分けや盛付け、毎食後の下膳、台拭きや茶碗拭きなどの片付けを利用者と一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お酒は年1回利用者と梅酒をつくり、晩酌程度に週3回程度楽しんでもらっている。また、時々ビールも嗜んでもらっている。 ・おやつを利用者と買いに行き、好みの物を選び購入してもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・利用者個々の排泄パターンを把握して、こまめな声掛けと誘導で尿意便意の確認をしている。 ・便意の訴えが少ない、または便が出にくい等の症状が見られた場合は速やかに主治医に相談できる環境が整っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴前の曜日や時間は決まっているが、拒否ある場合は無理強いせず本人の意思に任せている。また、利用者の好みの温度や時間を体調に注意しながら利用者のペースで入浴してもらっている。		・入浴は本人のタイミングも関係してしまうが、会話のやり取りから入浴を上手に促していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・寝具は本人が使いやすい物を持ってきてもらい、気持ちよく休息や安眠が保たれるよう支援している。また、利用者が休息したい時は本人の意思を重視している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・物づくりやミニゲーム、誕生日会など定期的に楽しみ場を設けている。また、最後までやり遂げる時間に個々の差はあるものの、根気強く支援していくことで利用者の力で達成することを大切にしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的に金銭管理は事業所側で行っているが、定期的な買い物に出かけ買いたい物を購入し利用者本人が支払いができるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は利用者の体調を見ながら散歩に出かけたり、外に出たいとの希望がある時はその都度出かけ、気分転換やストレスが発散できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・春はお花見、夏はお祭り、秋は外食など、季節に合わせた外出機会を設け、利用者家族に行事の参加を促しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者が自ら電話をかける事はないが、家族への電話希望がある場合は職員が支援している。また、家族からの電話は、利用者がゆっくり話せるように事務所にて話せるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・職員は訪問者に笑顔で挨拶をするよう心がけ、気軽に訪問できるようホームの清掃と雰囲気作りに力を入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員は「高齢者虐待防止法」の研修を受講し、身体拘束を行ってはいけないことを理解し、また行わない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室には鍵をかけることはないが、施設が交通量の非常に多い幹線道路沿いであること、また、外出希望がある時はその都度外に出れるように取り組んでいることから玄関のみ施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員が常に利用者を見守る事はできない。しかし、利用者の行動パターンを把握し、職員間で利用者の所在を密に確認し合うことを徹底するにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・職員は、利用者に応じた物品の危険度を話し合い、個人に合わせた物品の管理を行うようにしている。また、問題が生じるおそれのある物品と判断した場合、職員個人の判断ではなく、話し合いのもとで危険かどうか決定することになっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・歩行の困難な利用者には職員複数での支援、食べ物を細かくし水分と一緒に取ってもらうよう取り組んでいる。 ・薬は利用者名の書いてある所定の位置に1日ごと整理し誤薬のないようにしている。 ・消防署からの消防訓練を行うことで、消火器の利用方法や日常の防災に注意をはらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時は併設する病院の医師・看護師に指示を仰いでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・自主避難訓練を行っている。 ・災害時に備え、地域の消防団員の連絡先を事務所に掲示している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・天候状態、病状から見たリスクやADLの状態から見た起こり得る危険について家族と十分に話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・利用者に、少しでも体調の変化に異変を感じる時は、日誌・ケース記録・申し送りに記載し職員間で情報を共有している。また、食事摂取量や排泄の記録からも変化の把握に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は、利用者が服薬している薬の処方箋をケース記録にファイリングし、薬に変更があった場合は、必ず申し送りに記入している。 ・症状に変化があった場合には、直ちに主治医に報告および相談を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分補給を十分に行い、献立に麦ごはん、牛乳、イモ類を取り入れ便秘予防に努めている。 ・毎日、体操や体を動かすレクリエーションを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、うがい、義歯の洗浄を行い口腔内が清潔に保たれるように心がけている。 ・夕食後には義歯の専用剤にて殺菌している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢、活動状況と体重の増減を見ながら摂取量を調節している。 ・水分は毎食事、おやつ時、入浴後など利用者に合わせた量を飲水している。 ・お茶をあまり飲まない利用者にはコーヒーやスポーツ飲料水で対応している。 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事前に手洗い、手指消毒を行っている。 ・外部からの訪問者には手指消毒を行ってもらい、感染予防マニュアルに沿った予防を実施している。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の付近の消毒、台拭きの取り換えをこまめに行っている。 ・まな板は毎日消毒し、調理器具はその都度熱湯消毒を行っている。 ・食材は買い置きはせず、当日購入分の食材を使用している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関や建物周辺に植物を多く置き、特に玄関には季節ごとの花を置くことでやわらかい空間を創っている。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共用の空間には季節に応じた草花や、利用者の作った壁画を飾っている。 ・食堂やトイレは清潔であるようこまめに清掃を行っている。 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関、エレベーター前にソファを置き自由に利用できるよう配慮している。また、採光用窓の前にも日光浴など自由に過ごしてもらえるよう腰掛け椅子を置いている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日使う布団、椅子、テレビ、タンス等は使い慣れたものを自由に持ち込んでもらい、これまでの生活環境により近づけて過ごしてもらえるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・浴室の換気は常に行っており、不快なおいがこもらないようにしている。 ・空調の調節は、利用者ごとに寒暖を聞きながら職員が行うようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の身体機能に応じて、自立した生活が送れるように手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・職員が利用者一人ひとりの身体能力と理解力を把握することで、失敗を減らし自信を回復してもらい、少しでも自立した生活を送ってもらえるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・建物周りのプランターや花鉢で利用者と一緒に園芸を行い、植物の日々の成長や草取りを通じて四季を楽しむようにしている。また、育った草花をお世話になっている美容院に置かせてもらうことでコミュニケーションの活性も図っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員は利用者が、その人らしく生活が送れるよう、生活のリズム、ペースを大切にしている。又、笑顔や笑いが、いつもあるように、利用者と一緒に会話を楽しむ時間を持ったり、職員自身も楽しんでレクに参加したり、『利用者と一緒に楽しむ』という気持ちを全職員大切にしている。
- ・利用者の生活の場がホーム内だけに限られる事がないように、外出の機会を設け地域社会との接点を持ちながら生活できるよう支援している。
- ・比較的職員を多く配置しているので、利用者の個々の要望、希望に対応できる。